

11月企画編集会議

## 「答申案」へ、意見提出を申し合わせる

### 「答申案」とは

今年の五月、岡山県知事は、岡山県の人権政策審議会に対して、「第3次」の「人権政策推進指針」を策定するよう諮問しました。これを受けて、同審議会はこのほど「答申案」をとりまとめて公表しました。権人権推進課のホーム・ページなどに掲載されています。

この答申案は、今年の12月24日まで、市民の意見(パブリック・コメント)を広く求めています。この意見を勘案して、答申案が「答申書」として改めて公表されることとなります。この「答申書」は、向こう4年間の、岡山県の「人権政策推進指針」となるきわめて重要な文書です。

### パブリック・コメントを提出しよう

中島委員から、おかやま人権連では、人権

連の見解として、パブリック・コメントを提出する予定であるとして、「答申案」の問題点などの報告がありました。

ついで、おかやま人権研究センターの企画編集委員なども、意見を提出したらどうだろうかとといった提案があり、委員会としては委員各自が、自分の言葉で意見を提出するよう申し合わせました。

もちろん委員だけに限るものではありませんので、多くの方が、それぞれの意見を提出されることを期待しています。お問い合わせはセンター事務局 tel.086-253-1802まで。

### 人権散歩(光明園展示室) 大筋決まる

今年の秋の恒例人権散歩は、残念ながら実現されませんでした。来春、若葉の頃、最近オープンされたという光明園展示室を訪れてはどうかという提案があり、承認されま

した。具体案は、追ってお知らせし、参加者を募集することになりますので、どうかふるってご参加ください。

### 教育研究会

11月6日、岩間が、土井隆義『「個性」を煽られる子どもたち』(岩波ブックレット)の書評を行いました。

それによると、最近の子どもたちは、自分の生まれつきの「個性」を「もともと特別なオンリーワン」だとして重要視する結果として、「社会」「社会化」に意味を認めない閉鎖的な世界へ閉じこもりがちであり、閉鎖的な世界(親密圏)の中で、過度の演技を余儀なくされているといえます。

岩間は、そうした指摘をきわめて重要な指摘だとするとともに、著者ととともに「社会」「歴史」の復権を強調しました。そのための具体的方法こそ、「大きな物語を紡ぎ出す」ことだと締めくくりました。

(い)